

2007年 FLASH

平成19年

2007年の当社グループの動きを写真と年表で振り返ってみました。

開発案件等はプレスリリース日を基準に掲載しています。

2006年

12月

19日 チタン事業部がヤマハ発動機(株)より感謝状
当社とタイムット社(米国)は、ヤマハ発動機(株)から、二輪量産車リアサスペンションへのチタン合金の採用およびその安定供給に対し、感謝状を贈呈された。



31日 広畑製鉄所薄板工場F.I.P.L.で月間生産量日本新記録達成
広畑製鉄所は、薄板工場完全連続冷延鋼板製造ラインで月間生産量日本新記録(100,330t)を達成した。

2007年

01月

17日 『鉄の未来が見える本』を発行
「ものづくりの魅力」をわかりやすく紹介した『鉄と鉄鋼がわかる本』の続編として、『鉄の未来が見える本』を発行した。



18日 新日鉄エンジニアリング(株)が複雑な地形にも対応可能な最終処分場の軽量屋根を開発
新日鉄エンジニアリング(株)、鹿島建設(株)、太陽興業(株)は共同で、これまで建設が困難であった山間部など高低差のある地形での大規模な廃棄物最終処分場にも適用できる軽量屋根ユニット「エココーディオン・ルーフ・システム」を開発した。



22日 千速晃代表取締役会長ご逝去
千速晃代表取締役会長は1月22日に逝去され(享年71歳)、3月5日、東京・ホテルニューオータニでお別れの会が行われた。



30日 中部銅鈹(株)と戦略的提携合意
当社と中部銅鈹(株)は、両社の生産設備の相互有効活用をはじめとする、双方の競争力強化のための戦略的提携を実施していくことで合意した。また当社は中部銅鈹の株式を5%程度取得することとした。



31日 豪州鉄鉱石事業ロープ・リバー J/V の港湾拡張を決定
当社と三井物産(株)および住友金属工業(株)は、鉱物資源会社リオ・ティント社(豪・英)とともに西豪州で共同運営を行う鉄鉱石事業ロープ・リバー・ジョイントベンチャーにおいて、鉄鉱石積出港であるCape Lambert港の出荷能力を現行の5,700万t/年(公称能力5,500万t/年)から8,000万t/年へ拡張することを決定した。

02月

1日 船舶用高強度厚鋼板が「2006年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日本経済新聞賞」を受賞
当社の「船舶用降伏応力47キロ級高強度厚鋼板」が、日本経済新聞社主催の2006年日経優秀製品・サービス賞において、最優秀賞 日本経済新聞賞を受賞した。



17日 新日鉄エンジニアリング(株)が中国酒泉鉄鋼向け溶融亜鉛めっき設備を受注
新日鉄エンジニアリング(株)は、三菱商事(株)、富士電機(株)と共同で、酒泉鋼鉄(中国・甘粛省)より、家電・高級建材用溶融亜鉛めっきライン(CGL)2ラインの基本・詳細設計と設備の一部を受注した。

19日 世界最深クラスの海底ラインパイプ用 UO 鋼管を受注
当社は三井物産(株)と共同で、スペインとアルジェリアを結ぶ天然ガス輸送パイプライン向け高強度・深海用 UO 鋼管(大径溶接鋼管) 5万tを受注した。

23日 台湾・中国鋼鉄と石炭コンビネーション輸送契約に合意
当社と台湾・中国鋼鉄股份有限公司(CSC)は、当社の連結子会社である日鉄海運(株)との間で、日鉄海運(株)が保有する船舶を活用したコンビネーション輸送(共同配船)を実施することで合意に達した。

28日 本田技研工業(株)より「2007優良感謝賞(品質部門)」を受賞
当社は本田技研工業(株)より、納入する鋼材について「2007 優良感謝賞(品質部門)」を受賞した。同賞は 2005 年度より銅板メーカーにも対象が拡大され、当社は初受賞となった。



03月

3日 堺製鉄所大形工場が累計生産量 3,500 万 t を達成



10日 当社チタン屋根材が大谷美術館賞を受賞

当社は、清水建設(株)、(株)カナメ、ルーフシステム(株)、(株)響コーポレーションとともに「チタン製段付き本瓦葺き屋根および鬼瓦(浅草寺宝蔵門)」で平成 18 年度大谷美術館賞を受賞した。当社としては、平成 16 年度に続いて 2 度目の受賞となった。



20日 北海鋼機(株)銅板事業を完全子会社化

当社と当社の子会社である北海鋼機(株)は、建材薄板分野(メッキ・カラー銅板)におけるグループ競争力強化の一環として、当社による北海鋼機(株)銅板事業の完全子会社化につき基本合意

し、2007 年 7 月 1 日に株式交換により完全子会社化を実施した。

20日 棒線事業統合に向けた基本合意の成立

当社、北海鋼機(株)、中山三星建材(株)および(株)中山製鋼所は、北海鋼機の棒線事業と中山三星建材苫小牧工場の棒線事業の統合について基本合意し、8月1日に統合会社「NS 北海製線(株)」を設立した。

29日 (株)堺クリーンシステムが堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備運営事業の事業契約締結

新日鉄エンジニアリング(株)を代表企業とする(株)堺クリーンシステムは、大阪府堺市と「堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備運営事業」に関する事業契約を締結し、堺市内の事業用地(約 3ha)にシャフト炉式ガス化溶融施設の建設、ならびに 20 年間にわたる運転・維持管理業務を受託した。



31日 連結子会社・ニッテツ大阪エンジニアリングが解散

当社連結子会社であるニッテツ大阪エンジニアリング(株)は、2007 年 3 月 26 日開催の臨時株主総会で解散することを決定し、31 日付で解散した。

04月

1日 日鉄パイプライン(株)の発足ならびに日鉄ブリッジ(株)の新体制がスタート

新日鉄エンジニアリング(株)は、会社分割(分社型吸収分割)により、パイプライン事業を日鉄シビルコンストラクション(株)に承継し、日鉄パイプライン(株)を発足させた。また橋梁事業を日鉄ブリッジ(株)に承継し、新体制がスタートした。

1日 (株)日鉄電磁テクノ関東工場がコア加工開始

当社の連結子会社である(株)日鉄電磁テクノは、2 月、関東工場内にモーターコア加工工場を竣工し、4 月から営業運転を開始した。



3日 三村社長が(財)新日鉄文化財団理事長に就任

三村明夫社長が(財)新日鉄文化財団の理事長に就任した。

9日 日鉄東海鋼線(株)岐阜新工場第一期工事竣工

中京製線(株)と(株)チタックが経営統合し、2006 年 6 月に発足した日鉄東海鋼線(株)は、岐阜県関市の関テクノハイランドに新工場建設を進めてきたが、第一期工事が竣工し、営業生産を開始した。



10日 三村社長が監査役全国会議で講演

三村社長は、横浜市で開催された日本監査役協会主催の監査役全国会議で、「世界鉄鋼業界における業界再編の動向と新日鉄におけるコーポレートガバナンス」と題して講演を行った。



11日 中国におけるCDQに基づくCDM事業の国連承認

当社が中国河北省で進めているCDQ（コークス乾式消火設備：製鉄プロセスの代表的な省エネルギー技術）に基づくCDMプロジェクトが、4月6日付けで国連のCDM理事会により正式承認された。CDQを用いたCDMプロジェクトとしては世界初、当社としては昨年3月の中国でのフロン処理CDMプロジェクトに次ぐ2件目の国連正式承認案件となる。

16日 新日鉄化学(株)が有機EL・赤色燐光デバイスでの高性能化を実現

新日鉄化学(株)は、米国・UNIVERSAL DISPLAY CORPORATIONとの連携により、有機ELディスプレイに用いられる赤色燐光デバイスについて、駆動寿命を5倍とするなど大幅な高性能化を実現した。

17日 「大型高炉用の薄壁、耐火物一体型ステーブの開発」で文部科学大臣表彰を受賞



当社と新日鉄エンジニアリング(株)が開発した「大型高炉用の薄壁、耐火物一体型ステーブ」が、「平成19年度文部科学大臣表彰科学技術賞」を受賞した。本賞は科学技術に関する開発、理解増進などにおいて顕著な成果を収めたものの功績を讃える賞であり、当社においては平成15年度以来の受賞となった。

20日 本社移転が決定

当社は2009年夏を目途に、本社を「丸の内パークビルディング」(東京都千代田区丸の内、2009年春竣工予定)に移転することが内定した。

20日 (株)新日鉄都市開発 室蘭に大型商業施設をオープン

室蘭市において、(株)新日鉄都市開発が開発を進めてきた西胆振最大となるモール型商業施設「MORUE (モルエ) 中島」がグランドオープンを迎えた。



21日 「北九州イノベーションギャラリー」がオープン

八幡・東田第一高炉史跡広場横に「北九州イノベーションギャラリー」がオープンした。先人たちが蓄積した知の資産「人材・技術・産業遺産」を活用し、新しいイノベーションの機会創出を推進する。



24日 学習絵本(新日鉄・(株)ボスコ共同編集、日韓特別版)『鬼とドッケビの新・モノ語り』を発行



当社と(株)ボスコは、小中学生などを対象に、鉄作りを中心とした日韓の文化交流の歴史をわかりやすく紹介した学習絵本(日韓特別版)を発行した。今回の日韓特別版は絵本第7巻目となる。

24日 インドネシア・ニッポン・スチール・パイプの生産が本格化

タイ・インドネシアを中心とする自動車用鋼管の需要増に対応するため、タイに拠点を置くサイアム・ニッポン・スチール・パイプ(略称SNP、当社出資60.8%)のインドネシアにおける鋼管製造・販売子会社として設立したインドネシア・ニッポン・スチール・パイプ(略称INP)は、2007年1月に生産を開始し、4月より本格営業生産に移行した。



25日 名古屋製鉄所第1高炉に火入れ



名古屋製鉄所では、2月1日に第1高炉の「吹き止め」を行い改修工事を実施してきたが、4月25日に「火

入れ」を行い、稼働を再開した。今回の改修工事では、内容積を4,650m³から5,443m³に拡大し、高炉の操業状況を3次的に把握し、超大型高炉の安定操業に資する管理システム『3D-VENUS』を世界で初めて導入した。

27日 「耐塩酸性を飛躍的に向上させた耐硫酸性鋼 新S-TEN1の開発」で市村産業賞「功績賞」を受賞

当社が開発した「新S-TEN1」が「耐塩酸性を飛躍的に向上させた耐硫酸性鋼 新S-TEN1の開発」の件名で、第39回市村産業賞「功績賞」を受賞した。



27日 日鉄環境エンジニアリング(株)が養豚汚水の窒素除去システムを開発

日鉄環境エンジニアリング(株)は、大分県畜産試験場、三和酒類、南九州大学と共同で養豚汚水の窒素除去システムを開発した。



31日 君津製鉄所が2006年度粗鋼生産量1,000万t超を達成

君津製鉄所は2005年度に引き続き、2006年度も粗鋼生産量1,000万t超を達成した。

05月

10日 新日鉄エンジニアリング(株)が(株)日本格付研究所(JCR)より新規格付けを取得

新日鉄エンジニアリング(株)は、(株)日本格付研究所より、長期優先債務新規格付け「AA-(ポジティブ)」および国内コマーシャルペーパーの新規格付け「J-1+」を取得した。

11日 環境に配慮した自動車燃料タンク用鋼板「エココート-S」を開発・実用化

当社は、鉛フリー、クロメートフリーニーズに応えた、鉛を使用しない自動車燃料タンク用鋼材「エココート-S」を開発し、実用化に成功した。

18日 日鉄ドラム(株)が完全子会社化へ

当社と日鉄ドラム(株)は、各々の取締役会において、株式交換により日鉄ドラムを当社の完全子会社とすることを決議し、株式交換契約を締結した。

18日 名古屋製鉄所1CC(連続鋳造)機長延長、3RH(真空脱ガス)竣工式

18日 大分製鉄所厚板工場が30周年

大分製鉄所の厚板工場が操業30周年を迎え、記念式典と祝賀会が行われた。



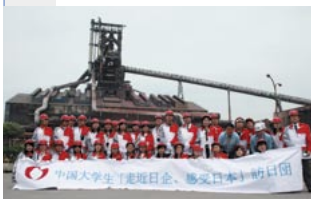
22日 室蘭製鉄所 第6コークス炉稼働再開

室蘭製鉄所の第6コークス炉の改修工事が終了し、24日に竣工式が行われた。



28日 中国大学生が製鉄所見学・ホームステイ体験

北京事務所長が副会長を務める、中国日本商会が行う訪日招待事業の一環で来日した中国大学生が君津製鉄所を見学し、ホームステイを体験した。



29日 新日鉄エンジニアリング(株)が中国・首钢京唐鋼鉄向け大型CDQ(コークス乾式消火設備)を受注

新日鉄エンジニアリング(株)は、首钢京唐鋼鉄連合有限责任公司(首钢京唐鋼鉄)から、世界最大となるCDQ設備(コークス冷却処理能力260t/h)を受注した。

29日 自動車排ガスの高感度測定技術を開発

当社は、東京工業大学、交通安全環境研究所、(株)トヤマと共同で、自動車排ガスに含まれる化学物質の濃度変化を従来の100倍以上の感度でリアルタイムに測定できるレーザーイオン化分析装置の開発に成功した。



06月

7日 高品質100mm口径炭化ケイ素単結晶ウェーハを開発

技術開発本部先端技術研究所において、100mm口径炭化ケイ素単結晶ウェーハの世界最高レベルの低欠陥化に成功した。次世代の半導体材料として、今後の市場拡大が期待される。



12日 原油タンカー用高耐食性厚鋼板が世界で初めて本格採用

当社と日本郵船(株)は、原油タンカーのタンク底面の腐食を防ぐ高耐食性厚鋼板「NSGP®-1」を共同で開発した。本開発鋼を試験適用した大型タンカー「TAKAMINE」での効果を受け、日本郵船は本開発鋼を今後建造する原油タンカーに世界で初めて全面的に採用する。



13日 当社と合同製鉄(株)が提携

当社と合同製鉄(株)は、双方の競争力強化のための一層の相互提携を実施していくことに合意した。



20日 浅草寺宝蔵門のチタン屋根が完成

東京・浅草寺宝蔵門の本瓦葺屋根に当社のチタン薄板が採用された。



23日 釜石製鉄所が「たたら製鉄」を実施

近代製鉄発祥150周年記念行事の一環として、釜石製鉄所がたたら製鉄を実施。参加した子どもたちは真剣な表情と笑顔を見せていた。8月23日にも同じく実施した。



30日 名古屋製鉄所薄板工場2号冷延ラインで月間生産量日本新記録達成

名古屋製鉄所は薄板工場2号冷延ラインにおいて、単独式冷延ラインとして月間生産量191.5千tを達成し、日本新記録を樹立した。



07月

1日 新日鉄化学(株)の君津コークス事業を継承

当社は、同日付けで新日鉄化学の君津コークス事業部を継承した。

5日 (株)新日鉄都市開発の芝浦三丁目再開発プロジェクトが本格着工

(株)新日鉄都市開発が、芝浦工業大学、日本土地建物(株)、阪急インベストメント・パートナーズ(株)と共同で展開し、戸田建設(株)が事業全体のコーディネートを手がける芝浦工業大学旧芝浦キャンパスの跡地再開発プロジェクトが本格着工した。名称は「芝浦 RENASITE (ルネサイト)」に決定した。



10日 豪州モランバーノース炭鉱における設備投資に合意

当社および豪州子会社である Nippon Steel Australia Pty Ltd. は、資源大手のアングロ・コール・オーストラリア社らとの間で、豪州のモランバーノース炭鉱において採炭設備の大型化・能力増強投資を行うことで合意した。

13日 アルセロールミタル社と覚書を締結

当社は、2006年7月のミタルスチール社によるアルセロール社統合を受け、当社とアルセロールミタル社は、合併事業並びに戦略提携の今後の取り扱いについて協議し、覚書を締結した。

19日 新日鉄エンジニアリング(株)がタイでのシェブロン社向け海洋プラットフォームおよび海底パイプライン施工プロジェクトを受注

新日鉄エンジニアリング(株)は、シェブロン社 (Chevron Offshore Thailand Limited) より、タイシャム湾における天然ガス開発用ウェルヘッドプラットフォーム(デッキ、ジャケット、パイル)設置及びパイプライン敷設工事を受注した(2008年度工事分)。同社が保有する「第2くろしお」で施工する年間請負契約で、2007年契約に続く継続受注となった。



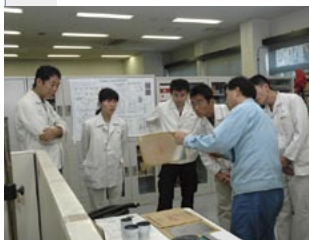
25日 大分製鉄所が高級厚板の製造体制を強化

造船・エネルギー分野を中心とした高級厚板の需要拡大に対応するため、大分製鉄所の厚板工場において、粗圧延機1基および切断ライン1ラインの増設を行うことを決定した。

25日 新潟県中越沖地震災害に対する支援を決定

新日鉄グループでは、新潟県中越沖地震で被災された地域の早期の復興を願い、2,000万円の義捐金を社会福祉法人新潟県共同募金会に寄付することを決定した。

25日 教員民間企業研修を実施
(財)経済広報センターが主催する「教員民間企業研修」が室蘭製鉄所で実施された。また8月6～7日には名古屋製鉄所で、8月24日には君津製鉄所および技術開発本部でも実施された。



08月

7日 第2回「ものづくり日本大賞」を受賞

当社は、第2回「ものづくり日本大賞」において、「重荷重鉄道用高耐摩耗・耐内部疲労損傷性レール」で経済産業大臣賞を、「たたら製鉄法による若手自身の手による砂鉄と木炭を使った鉄づくりの取り組み」で九州経済産業局長賞を受賞した。



9日 新日鉄エンジニアリング(株)が日本貨物航空(株)向け整備用ハンガー建設工事を受注
新日鉄エンジニアリング(株)は、日本貨物航空(株)より、成田国際空港整備地区内に建設する2009年春供用開始予定の航空機整備用ハンガー(航空機の整備を行うための施設)を、提案コンペを経て設計・施工一括で受注した。



9日 ウジミナス社が設備投資方針を決定

当社のアライアンスパートナーであり持分法適用関連会社であるウジミナス社は、「Usiminas System Development Plan (ウジミナス社拡張投資計画)」において、新設高炉の炉内容積を南北アメリカ最大となる5,000m³級とすることおよびその他の設備に関する設備投資方針を決定した。



22日 君津製鉄所熱延工場 累計生産量1億5,000万t達成
1969年1月に営業運転を開始し、38年8カ月で達成。国内の製鉄所では4番目の達成となる。



09月

4日 第17回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート

紀尾井ホールで「第17回新日鉄音楽賞」の贈呈式と受賞記念コンサートが行われた。



「フレッシュアーティスト賞」指揮者・下野竜也さん(左)と「特別賞」ピアノ調律師・村上輝久さん

5日 新日鉄エンジニアリング(株)が三菱重工橋梁エンジニアリング(株)と橋梁分野で事業提携

新日鉄エンジニアリング(株)と三菱重工橋梁エンジニアリング(株)は、橋梁分野で事業提携することで合意した。橋梁の材料、開発・設計、製造、現地施工から保全に至るまで、両社の得意とする技術・ノウハウを融合させ、新たな高度技術案件に迅速かつ効率的に対応して、さらなる事業強化を図る。

5日 戦略特許発明表彰 26名の社員に金賞

当社の技術先進性の拡大に寄与する戦略特許発明の貢献に貢献した26名の社員に、「平成19年度戦略特許発明金賞」が授与された。



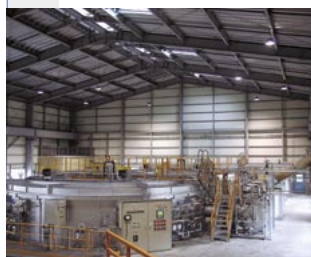
5日 新日鉄エンジニアリング(株)が新潟GTL実証プラントの建設に着工

新日鉄エンジニアリング(株)は、国際石油開発(株)、新日本石油(株)、石油資源開発(株)、コスモ石油(株)、千代田化工建設(株)とともに、2006年10月25日に日本GTL技術研究組合を設立し、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)と共同で、天然ガスの液体燃料化技術(GTL)の実証研究を開始。9月5日に新潟市で500バレル/日のGTL実証プラント建設の起工式を行った。



11日 新日本テクノカーボン(株)が特殊炭素製品の生産ラインを新設

新日鉄化学(株)グループの新日本テクノカーボン(株)は、本社・仙台工場において、特殊炭素製品の生産ラインを新設し、年産能力を約2,000t増強することを決定した。2008年12月に稼働開始予定で、年産8,000t体制を確立する。



14日 新日鉄グループ第3回ものづくり現場力向上JK大会開催

本社にて第3回大会が開催され、グループ会社を含む代表13サークルが発表を行った。



15日 北九州イノベーションギャラリーで企画展「八幡東田ものがたり」を開催

当社協賛の企画展「八幡東田ものがたり」が北九州イノベーションギャラリーで開催された(9月15日～12月9日)。八幡製鉄所建設の沿革などが、パネルや展示物、映像で紹介された。



18日 チタン薄板 キヤノン製デジタルカメラのボディ外装に継続採用

キヤノン製デジタルカメラの新製品IXY DIGITAL 2000 ISのボディ外装に、当社のチタン薄板が昨年のIXY DIGITAL 1000に続き採用された。



26日 王子製鉄(株)の株式を取得し、持分法適用会社化へ

当社は、大同特殊鋼(株)の保有する王子製鉄(株)の発行済株式35.6%を取得することについて、大同特殊鋼と基本合意した。これにより当社の保有比率は42.8%となり、王子製鉄は新日鉄の持分法適用会社となった。

**27日 日中鉄鋼環境保全・省エネルギー先進技術専門交流会
28日 を開催**

中国・北京で日中の省エネルギー・環境に関する政策や技術に関するフォーラム・専門家交流会が開催された。当社からは関澤副社長、青木執行役員が出席した。



10月

1日 ニッテツスーパーフレーム®工法を採用した「イデアルコート鉄竜」がグッドデザイン賞を受賞

当社が独自開発した「ニッテツスーパーフレーム®工法」を採用した「イデアルコート鉄竜」(デザイン・設計:矢作昌生建築設計事務所、事業主:新日本ホームズ(株)、北九州市)が、(財)日本産業デザイン振興会主催の「2007年度グッドデザイン賞(建築・環境デザイン部門)」を受賞した。



1日 (株)新日鉄都市開発の「コートデコ洗足レイクサイド」がグッドデザイン賞を受賞
(株)新日鉄都市開発が開発した「コートデコ洗足レイクサイド」が、(財)日本産業デザイン振興会主催の「2007年度グッドデザイン賞(建築・環境デザイン部門)」を受賞した。



2日 「霞が関コモンゲート」が竣工



新日鉄グループが設立した「霞が関7号館PFI(株)」

と国、独立行政法人都市再生機構、地権者などが東京都千代田区霞が関3丁目にて開発を進めてきた「霞が関コモンゲート(霞が関R7プロジェクト)」が竣工し、2007年10月2日に竣工式典を開催した。

7日 IISI(国際鉄鋼協会)年次総会を開催

9日 IISIの第41回年次総会がドイツ・ベルリンで開催され、当社からは三村社長が出席した。分科会やセッションでは、地球環境問題などについて活発な議論が展開された。



17日 NSハノイスチールサービスが開業式を開催

当社と日鉄商事(株)のベトナムでの合弁コイルセンター「NSハノイスチールサービス」の開業式が行われた。



17日 「エコ・テクノ2007」に出展

八幡製鉄所は、新日鉄エンジニアリング(株)、(株)九州テクノリサーチ、西日本ペットボトルリサイクル(株)とともに「エコ・テクノ2007」に出展し、循環型社会構築への参画や環境ソリューションの提供などをPRした。

18日 豪州ウッドサイド社向け海底ガスパイプライン用鋼管を約13万t受注

当社は三井物産(株)と共同で、オーストラリア最大のエネルギー会社であるウッドサイド社開発のブルー液体天然ガス(LNG)プロジェクト向けラインパイプ用鋼管約13万tを全量受注した。2007年末より2008年秋にかけて納入する。

22日 (株)ボスコと還元鉄の供給と乾式ダストリサイクルに関する合弁会社を設立

当社と(株)ボスコは、還元鉄の供給と乾式ダストリサイクルに関する共同事業について契約を締結し、合弁会社を設立することとなった。



24日 サイラム・ティン・プレート(略称STP)の能力増強に合意

当社と住友商事(株)、(株)メタルワンは、タイに拠点を置くサイラム・ティン・プレート(略称STP)の能力増強を行うことで合意した。



30日 新日鉄・住友金属工業(株)・(株)神戸製鋼所間でさらなる連携深化・拡大を検討
当社、住友金属工業(株)、(株)神戸製鋼所の3社は、住友金属和歌山の高級鋼鉄源の効率的活用の拡大策をはじめとするさらなる連携深化・拡大施策について検討することとなった。



30日 柔道・東アジア選手権大会で優勝

31日 中国で行われた東アジア選手権大会において、吉永慎也選手が81kg級に出場し、優勝した。





1日 新日鉄一宝鋼友好協力30周年記念行事を開催

2日 当社と宝鋼集団の友好協力30周年記念行事が君津製鉄所および近隣のホテルで行われ、両社の幹部、OBなど関係者約250名が参加した。



1日 君津製鉄所第3高炉が累計出鉄量1億t達成



2日 低炭鉛フリー快削鋼が富士ゼロックス㈱で全面採用

当社の低炭鉛フリー快削鋼線材「SUM24EZ」が、富士ゼロックス㈱が今後発売する複写機・プリンターの新製品のの中核部品（シャフト）の素材に全面的に採用されることとなった。当社は、従来の低炭鉛快削鋼の製造を2008年3月末で中止するとともに、低炭鉛フリー快削鋼線材を幅広い分野で広め、環境負荷物質軽減をさらに推進していく。

7日 新日鉄エンジニアリング㈱が中国・馬鞍山鋼鉄向け乾式ダストリサイクル設備(RHF)を受注

新日鉄エンジニアリング㈱は三菱商事㈱と共同で、中国の馬鞍山鋼鉄より、中国での第1号機となる乾式ダストリサイクル設備(RHF)を受注した。

9日 米国 NS Sales が累計販売量 500万tを達成

Nippon Steel U.S.A., Inc. の子会社の NS Sales は1987年の設立以来、I/N Tek材を中心にアルセロールミタル社の冷延鋼板を、おもに日系自動車部品、工具箱、鋼製家具向けに販売してきたが、本年7月に累計販売量500万tを達成し、11月9日に記念パーティが開催された。



10日 名古屋・東海秋まつりで「たたら製鉄」を開催

11日 名古屋製鉄所は東海秋まつりの中で、昨年に引き続き「たたら製鉄」を開催した。今年は東海市立青少年センターの発明クラブの子供たち7人が参加し、炉の製作から、ケラ出しまでを一緒にやった。



13日 新日鉄エンジニアリング㈱が東邦チタニウム㈱若松工場新設プロジェクトの建設工事を受注

新日鉄エンジニアリング㈱は、㈱日鉄エレクトックスと共同で、東邦チタニウム㈱が現在の茅ヶ崎工場より大型化、効率化、省力化を図って八幡製鉄所所有地に建設する新工場のうち、電解・還元分離工場の建設工事を受注した。

14日 自動車分野向けに米国チタン協会からチタン用途開拓賞を受賞

当社は ITA (米国チタン協会) から、新規用途開拓として自動車分野での需要開拓に貢献したことにより、今回新設された「チタン用途開拓賞」を受賞した。



16日 佐川美術館の茶室屋根に新日鉄のチタンが採用

滋賀県佐川美術館の「樂吉左衛門館」の茶室の屋根に当社のチタンが採用された。



19日 高級鋼の製造対応力強化に向けて製鋼脱ガス能力を増強拡大する高級鋼需要への製造対応力を強化するため、君津製鉄所製鋼工場において、脱ガス設備を1基増設することを決定した。

21日 新日鉄グループ第3回技能トライアスロン大会開催

第3回大会が名古屋製鉄所を会場に開催され、グループ会社を含む25名の若手社員が参加し、機械整備の「仕上げ」「工事」「鉄工」の三大技能を競い合った。



27日 高アレスト型降伏応力 47キロ高強度厚鋼板が海外造船会社建造船に初採用

当社の高アレスト型降伏応力47キロ高強度厚鋼板(以下、YP47キロ鋼)が、韓国最大手の造船会社である現代重工業が建造する大型コンテナ船に採用された。YP47キロ鋼が海外造船会社の建造船に採用されたのは今回が初めてとなる。



27日 IT 操業支援システムが「日経ものづくり大賞」を受賞

当社が独自開発し、製鉄所に導入を進めている「IT(情報技術)を活用した操業支援システム」が、「2007年日経ものづくり大賞」を受賞した。



12月

1日 近代製鉄発祥150周年記念式典を釜石で開催

鉄の記念日でもある当日、近代製鉄発祥150周年を記念して釜石市民文化会館大ホールにて鉄のフォーラム、記念式典、記念講演が行われ、三村社長や岩手県達増知事らが出席した。また、釜石駅前広場に鉄のモニュメント除幕式が開催された。



1日 堺浜地区でシャープ(株)新工場の起工式を開催



堺製鉄所が大阪府や堺市と共同で開発を進めている堺浜地区で、シャープ(株)の世界最大級となる液晶テレビ向けパネル新工場の起工式が行われた。

1日 科学技術館でたたらイベントを開催



東京北の丸公園の科学技術館において、当社『新・モノ語り友の会』によるたたらイベントが行われた。11月18日に君津製鉄所を見学。1日は(株)ボスコ 人材開発院教授の李寧熙氏と東京工業大学教授の永田和宏氏による講演会が行われ、2日は永田教授指導のもと、たたら製鉄の原理を応用した製鉄実験を行った。

2日 第6回「東田たたらプロジェクト」を開催

八幡製鉄所と北九州イノベーションギャラリーは、東田第一高炉史跡広場で直協若手社員・大学生による「育成たたら」と市民親子による「市民たたら」をそれぞれ開催し、古代製鉄の操業を行った。



4日 広畑製鉄所電磁鋼板工場 累計生産量1,000万t達成

4日 新日鉄マテリアルズ(株)が「新Cuボンディングワイヤ」を開発

新日鉄マテリアルズ(株)は、半導体実装用ボンディングワイヤにおいて、表面処理を施した新しいCu(銅)ボンディングワイヤを開発し、今春から量産を開始する。

6日 東京製造所がシームレス鋼管累計生産量500万tを突破

当社のシームレス鋼管ミルである東京製造所は、圧延ベースの累計生産量で500万tを達成した。



6日 広畑製鉄所が「たたら製鉄」を実施

広畑製鉄所が地元広畑小学校への出前授業で「たたら製鉄」を行った。

6日 新日鉄化学(株)がNEDO委託事業「有機EL照明技術開発」に赤色・緑色燐光材料を供給

新日鉄化学(株)は、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)から、松下電工(株)など3社が受託した「有機発光機構を用いた高効率照明技術の開発」に、自社で開発した赤色および緑色の有機EL燐光材料を供給することとなった。

7日 世界最大級の鉄鉱石専用輸送船「BRASIL MARU」が竣工

当社のブラジル鉄鉱石を輸送する鉄鉱石専用船「BRASIL MARU(ぶらじる丸)」が竣工し、12月3日、命名・引渡式が行われた。ブラジルからアジア向けに鉄鋼原料を輸送する専用船としては初めて30万tを超える世界最大級の原料船となる。

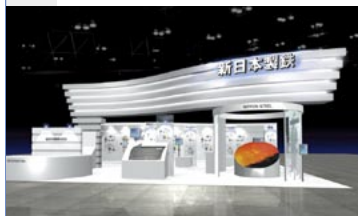


11日 (株)シーケムがコールタール蒸留能力とニードルコークス・ピッチの生産能力を増強

新日鉄化学(株)グループのコールケミカル事業の中核会社である(株)シーケムは、主力製品の炭素材料「ニードルコークス」および「ピッチ」について、生産能力をおよそ2割程度増強することを決定した。また主原料となるコールタルの蒸留設備について、世界トップクラスの規模となる90万tに増強することを決定した。

13日 「エコプロダクツ2007」に出展

15日 新日鉄グループは、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2007」に出展。『エコプロダクツ』、『エコプロセス』、『エコソリューション』の3つのカテゴリで、環境問題に対する取組みを総合的に展示した。最終日には福田首相が来訪され、青木執行役員が当社の取り組みを紹介した。



19日 名古屋製鉄所6号転炉竣工式

12月19日、名古屋製鉄所6号転炉の竣工式が行われた。

